

## 北九州市公共施設マネジメント実行計画（素案）について （教育委員会所管施設）

### 1 学校施設

#### 《施設マネジメント》

- ・ 教育効果の向上と教育環境の整備を図るため、学校規模適正化に取り組めます。
- ・ 学校教育に支障がないことや児童生徒の安全確保に十分に配慮した上で、引き続き、体育館やプールなどの学校施設の開放に取り組めます。
- ・ 学校の統合や学校施設の更新の際には、可能な限り市民センターや放課後児童クラブとの複合化を図ります。
- ・ 平成 32 年頃から急激に増大する施設更新については、施設の長寿命化等により対応します。

#### 《利用料金の見直し》

- ・ 学校施設の市民利用についても負担のあり方を検討します。

### 2 市民活動拠点施設（生涯学習センター、勤労青少年ホーム、男女共同参画施設等）

- ・ 特定の目的に縛られず、公共性を有する活動であれば全ての施設で同様の利用を可能とすることで、効率を高め、施設の集約に繋げていくこととします。

### 3 図書館

以下のとおりとしていくこととします。

- ・ 中央図書館：中核拠点施設
  - ・ 地区図書館：地域拠点施設
- } としての図書館サービス体制に移行
- ・ 分館：大規模区役所出張所周辺の施設を存続

それ以外の分館については、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減

### 4 その他の公共施設

- ・ 給食会館については、学校施設の活用により廃止します。

# 平成27年 北九州市公共施設マネジメント実行計画(素案)より

## 2. 学校施設

### ■ 施設の現状

施設保有量(H27.3)：延床面積 1,372 千㎡・193 施設(小 131 校、中 62 校)  
 うち小規模校 (H27.5)：小学校(11 学級以下)53 校、中学校(8 学級以下)14 校

本市では、教育効果の向上と教育環境の整備を図るために、将来にわたって小学校で 12～24 学級、中学校で 9～24 学級を回復することが見込めない小規模校については、学校統合により、学校規模の適正化を図ることとしています。

表 2-1 規模別学校数、児童生徒数、学級数の推移(昭和 60 年以降)

		S60	H7	H17	H27	H37	H47	H52
小学校	小規模校	18(2)	34(2)	45(2)	53(1)	57(1)	67	67
	適正規模校	89	95	83	76	72	65	65
	大規模校	27	10	6	2	3	0	0
	学校数	143(2)	139(2)	134(2)	131(1)	132(1)	132(1)	132(1)
	児童数	93,838	64,425	52,564	48,087	41,327	35,322	33,926
	学級数	2,768	2,040	1,707	1,662	1,473	1,324	1,299
中学校	小規模校	1	13	15	14	18	28	28
	適正規模校	56	53	47	48	43	34	34
	大規模校	11	4	1	0	1	0	0
	学校数	68	70	63	62	62	62	62
	生徒数	49,028	34,247	24,965	23,857	21,226	16,591	15,922
	学級数	1,241	981	722	707	650	520	509

※各年とも 5 月 1 日現在の校数、児童生徒数、学級数(特別支援学級を含まない)

※学校規模は、学級数で区分。小規模校欄の( )内は分校で再掲

※平成 37 年、47 年、52 年は、推計値

### ■ 学校施設のマネジメントの概要

教育効果の向上と教育環境の整備を図るため、「北九州市立小・中学校の規模のあり方について」の基準に沿って、学校規模適正化に取り組めます。

学校教育に支障がないことや児童生徒の安全確保に十分に配慮した上で、引き続き、市民の健康づくりの場や活動の受け皿として、体育館やプールなどの学校施設の開放に取り組めます。

学校の統合や学校施設の更新の際には、多世代が交流できる地域施設となるよう、可能な限り市民センターや放課後児童クラブとの複合化を図ります。

平成 32 年頃から急激に増大する施設更新については、施設の長寿命化等により対応します。

### ■ 学校施設の減少見込み

今後、40 年かけて順次、学校統合により 47 校が閉校した場合、延床面積は約 23% 減少します。

### 3-2 市民活動拠点施設(生涯学習センター、勤労青少年ホーム、男女共同参画施設等)

#### ■ 施設の現状

##### (生涯学習センター)

延床面積：247 百㎡（10施設）

年間利用者数：53万人、平均稼働率：39.4%、利用者あたりコスト743円

##### (勤労青少年ホーム)

延床面積：41 百㎡（3施設(門司・若松・八幡西)）

年間利用者数：10万人、平均稼働率：35.7%、利用者あたりコスト767円

##### (男女共同参画施設)

延床面積：153 百㎡（3施設(ムーブ・もじ・やはた)）

年間利用者数：47万人、平均稼働率：48.2%、利用者あたりコスト515円

#### ■ 市民活動拠点施設のマネジメントの概要

生涯学習センター、勤労青少年ホーム、男女共同参画施設等については、これまで、特定の行政目的に対応して専用施設を設置しており、その結果、類似設備を持つ施設の重複など、必ずしも効率的とは言えない点が見受けられます。

それぞれの施設では行政目的に沿った事業を実施していますが、利用の多くは一般の貸室利用（会議室、和室、調理室、音楽室、美術室など）となっており、類似する事業があること、また、平均稼働率は5割を下回っており、部屋の使い方などを工夫する余地があることなど、必ずしも効率的とは言えない点も見受けられます。

これらのうち、勤労青少年ホームは、法改正(H27.10)により、設置根拠規定が削除されたことなど、設置当初の目的が薄れています。また、生涯学習社会の実現、男女共同参画社会の形成といった取組みはより実効性が求められています。

このため、特定の目的に縛られず、公共性を有する活動であれば全ての施設で同様の利用を可能とすることで、効率を高め、施設の集約に繋げていくこととします。

なお、具体的な見直し方法については、各施設で行われている行政施策の立案や事業を継続的に実施していくための制度設計を軸に、今後2年以内を目途に、見直し内容や手順などの検討及び関係者調整を進め、特定目的について見直しを図り、誰もが利用しやすい施設とします。

表 3-2-1 個別施設のマネジメント計画

施設名	1期 H28～H37	2期 H38～H47	3期 H48～H57	4期 H58～H67	以降	将来の施設
門司生涯学習センター	●(H30年代前半)集約					門司港地域 複合施設
門司勤労青少年ホーム	調整・廃止検討	●(H30年代前半)	門司港地域複合施設		更新	
東部勤労婦人センター		●(H30年代後半)集約				
男女共同参画センター					更新	小倉北地域 市民活動拠点施設 (大手町ビル)
生涯学習総合センター 婦人会館		耐用年限までに集約		●(H61)耐用年限		
小倉南生涯学習センター			↓(H47)60年目	(H67)更新●		小倉南地域 市民活動拠点施設 (小倉南生涯学習 センターの建物)
小倉南生涯学習センター 北方分館	当面活用しあり方を検討			↓(H62)60年目		北方分館
若松生涯学習センター				↓(H57)60年目	更新	若松地域 市民活動拠点施設 (若松生涯学習 センターの建物)
若松勤労青少年ホーム	●調整・廃止検討					
八幡東生涯学習センター				60年目(H65)↓	更新	八幡東地域 市民活動拠点施設 (八幡東生涯学習 センターの建物)
西部勤労婦人センター		耐用年限までに集約	●(H49)60年目			
八幡西生涯学習総合センター					更新	黒崎地域 市民活動拠点施設 (八幡西生涯学習総合 センターの建物)
八幡西生涯学習総合センター 折尾分館	●移転	耐用年限までに地域拠点のあり方検討				折尾地域 市民活動拠点施設 (八幡西勤労青少年 ホームの建物)
八幡西勤労青少年ホーム				↓(H55)60年目		
戸畑生涯学習センター				●(H59)60年目		戸畑地域 市民活動拠点施設
夜宮青少年センター 福祉会館(ウェルとばた)		集約の方向で検討	●(H44)60年目		更新	

■ マネジメントの結果

今後、マネジメント計画に沿って、公共施設のマネジメントの取組みを進める場合、40年後の施設量として、延床面積は約35%削減されます。

### 3-4 図書館

#### ■ 施設の現況

図書館延床面積：271 百㎡（21 施設-183 万冊蔵書）

※中央図書館、平成 29 年度に供用開始を予定している小倉南図書館を含む地区図書館（6）、分館（11）、国際友好記念図書館、視聴覚センター、旧戸畑図書館

年間貸出冊数：385 万冊、利用者あたりコスト 314 円/人

本市には中央図書館と地区図書館があり、分館を合わせると 21 の図書館が設置されており、他都市と比較して、施設数が多くなっています。

※地区図書館には小倉南図書館（H29）を含む

#### ■ 図書館のマネジメントの概要

中央図書館を中核拠点施設とし、地区図書館を地域拠点施設とした図書館サービス体制に移行し、分館については、大規模区役所出張所周辺の施設を存続することとし、それ以外の分館については、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減していくこととします。

なお、市民に望まれる図書館サービスの充実については、現在、図書館協議会に諮問している「これからの図書館サービスのあり方」についての答申などを踏まえ、検討することとしています。

更新の際には出来るだけ複合化を図り、閲覧室の適正規模確保に努めます。

門司図書館、国際友好記念図書館は門司港地域の複合施設に集約します。

また、折尾分館は区画整理事業で解体されることから JR 折尾駅周辺などへの移転を検討します。

なお、企救分館は廃止し、八幡東分館、戸畑分館は廃止を検討します。

表 3-4-1 図書館のマネジメント計画

施設名	1期 H28~H37	2期 H38~H47	3期 H48~H57	4期 H58~H67	以降	将来の施設
国際友好記念図書館	→●(H30年代前半)集約					観光施設
門司図書館	→●(H30年代前半)集約 ↓ ●(H30年代前半)新設	門司港地域複合施設			更新	門司港地域複合公共施設
大里分館						大里分館
新門司分館						新門司分館
中央図書館 勝山分館 視聴覚センター	→		↑(H46)60年目		更新	中央図書館 ----- 子ども図書館
小倉南図書館	●(H29年度)新設				更新	小倉南図書館
企救分館	→●(H29年度)廃止					
曾根分館						曾根分館
若松図書館					更新	若松図書館
島郷分館						島郷分館
八幡図書館	→●(H28年度)移転				更新	八幡図書館
八幡東分館	→●廃止検討					
八幡西図書館					更新	八幡西図書館
折尾分館	→●JR折尾駅周辺などに移転					折尾分館
八幡南分館			↑(H50)60年目			八幡南分館
戸畑図書館					更新	戸畑図書館
戸畑分館	→●廃止検討					
旧戸畑図書館(廃止済)						
大池分館(廃止済)						

### ■ マネジメントの結果

今後、マネジメント計画に沿って、公共施設のマネジメントの取組みを進める場合、40年後の施設量として、延床面積は約10%削減されます。